

1. 略歴

- 1990年4月 東京藝術大学美術学部芸術学科入学
1994年3月 東京藝術大学美術学部芸術学科卒業
1994年4月 東京藝術大学大学院美術研究科日本・東洋美術史専攻修士課程入学
1996年3月 東京藝術大学大学院美術研究科日本・東洋美術史専攻修士課程修了
1996年4月 東京藝術大学大学院美術研究科美術専攻博士後期課程入学
2000年3月 東京藝術大学大学院美術研究科美術専攻博士後期課程修了、博士（美術）の学位取得
2000年4月 日本学術振興会特別研究員（PD）（2003年3月まで）
2004年4月 財団法人和文華館学芸部部員（2005年9月まで）
2005年10月 東京工業大学大学院社会理工学研究科価値システム専攻助教授（2007年3月まで）
2007年4月 同 准教授（2012年3月まで）
2012年4月 東京大学大学院人文社会系研究科准教授

2. 主な研究活動

a 専門分野

日本美術史、主として中世絵画史

b 研究課題

中世やまと絵の研究、絵巻および絵師組織の研究

c 概要と自己評価

最近10年の研究論文を総括した『中世やまと絵史論』を刊行した。本書は、「中世絵巻論」「初期土佐派論」「土佐光信論」「戦国時代やまと絵論」の4部23章からなり、絵巻の制作と享受の実態、土佐派をはじめとする室町時代の画派の形成過程、室町後期に活躍した絵師・土佐光信の画業の検討、戦国時代における多流派によるやまと絵制作と大画面様式の変容を追究した。また、『「月次祭礼図屏風」の復元と研究』は愛知県立芸術大学の日本画研究室を中心とするプロジェクトの成果で、近世の模本に日本画・日本史・民俗史・美術史の諸分野から検討を加え、室町時代の屏風の復元を試みた。このほか、各種展覧会への協力・寄稿や、国際学会での発表を行った。今後も、科研等の外部資金によって実施中の14世紀絵画に関する検討を中心に、引き続き研究を推進する予定である。

d 主要業績

(1) 著書

- 共著、高岸輝ほか、『西湖憧憬—西湖梅をめぐる禅僧の交流と十五世紀の東国文化—』、神奈川県立金沢文庫、2018.9
共著、高岸輝ほか、『室町將軍—戦乱と美の足利十五代—』、九州国立博物館、2019.7
単著、高岸輝、『中世やまと絵史論』、吉川弘文館、2020.3
編著、岩永てるみ・阪野智啓・高岸輝・小島道裕編、『「月次祭礼図屏風」の復元と研究—よみがえる室町京都のかげやき』、思文閣出版、2020.6

(2) 論文

- 高岸輝、「やまと絵屏風の変容—室町から桃山へ」、『聚美』、26、48-65頁、2018.1
高岸輝、「蒙古的衝撃—花園天皇与十四世紀的日本絵画」、『美術史研究集刊』、44、93-98頁、2018.4
Akira Takagishi、「The Development of International Research on Japanese Art History: With a Focus on Yashiro Yukio's Study of Illustrated Handscrolls」、『Acta Asiatica』、117、51-61頁、2019.8

(3) 書評

- 黒田日出男、『岩佐又兵衛と松平忠直』、『日本歴史』、836、149頁、2018.1
並木誠士、『日本絵画の転換点—酒飯論絵巻』、『日本歴史』、838、119頁、2018.3
林温、『日本美術がワカル本』、『日本歴史』、840、119頁、2018.5
古田亮、『日本画とは何だったのか』、『日本歴史』、842、116頁、2018.7
西山克編、『地獄への招待』、『日本歴史』、844、119頁、2018.9
古田亮、『横山大観』、『日本歴史』、846、118頁、2018.11
小峯和明、『遣唐使と外交神話』、『日本歴史』、848、145頁、2019.1
加須屋誠、『記憶の図像学』、吉川弘文館、『週刊読書人』、3292、6頁、2019

松島仁、『権力の肖像』、『日本歴史』、850、117 頁、2019.3
菅原真弓、『月岡芳年伝』、『日本歴史』、852、119 頁、2019.5
稲本万里子、『源氏絵の系譜』、『日本歴史』、854、116 頁、2019.7
佐藤康宏、『若冲伝』、『日本歴史』、856、116 頁、2019.9
太田昌子、『志度寺縁起絵』、『日本歴史』、858、118 頁、2019.11

(4) 解説

高岸輝、「遊行上人縁起絵巻」、『日本歴史』、848、口絵頁、2019.1

(5) 学会発表

国内、高岸輝、「戦国時代における霊場歴覧と縁起・勸進・絵画」、第 71 回 美術史学会全国大会 シンポジウム「聖地巡礼」、東北大学、2018.5.19

国内、高岸輝、「室町將軍の身体観—画像と彫像の比較分析—」、シンポジウム「京都・等持院 歴代足利將軍像の謎に迫る」、九州国立博物館、2019.8.12

国際、高岸輝、Medieval Art, Patronage, and Inter-Contextuality、International Symposium/Workshop in Japanese Literary and Visual Studies、Columbia University、2020.2.28

(6) 啓蒙

高岸輝・三浦篤・加治屋健司、「東京大学 美術作品展」、『淡青』、38、8-16 頁、2019.3

高岸輝ほか、「シンポジウム抄録 宇佐美圭司《きずな》から出発して」、『淡青』、38、4-7 頁、2019.3

(7) マスコミ

「勅撰和歌集に匹敵する絵巻」、『京都新聞』、2019.11.22

(8) 研究テーマ

文部科学省科学研究費補助金、基盤研究 B、高岸輝、研究代表者、「十四世紀を中心とする縁起・絵伝の制作組織および様式系統の総合的研究」、2018～

寄附金、三菱財団人文科学研究助成、高岸輝、研究代表者、「戦国時代の絵画制作にみる都鄙間交流と文化の全国波及」、2018～

3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

特別講演、神奈川県立金沢文庫、「室町・戦国時代における西湖イメージのひろがり—土佐派の絵画を中心に—」、2018.10

特別講演、群馬県立土屋文明記念文学館、「「やまと絵」のなかの中国—室町時代の画文交響の一断面—土佐光信と《西湖放鶴図》を中心に」、2019.1

特別講演、フリーア美術館（米国ワシントン D.C.）、「フリーア美術館所蔵「槻峯寺建立修行縁起絵巻」とともに歩んだ 20 年の旅（1998～2019）」、2019.3

特別講演、海の見える杜美術館、「17 世紀における中世絵巻の再生」、2019.4

非常勤講師、東北大学大学院文学研究科・文学部、「日本中世の天皇と美術」、2020.1

(2) 学会

国内、日本歴史学会、評議員、2018.7～

国内、美術史学会、常任委員、2019.6～